

あとがき

私が『苦小牧市史 上巻・下巻・資料編』の編さんを終えたのは昭和五十二年（一九八七）三月で、年齢は四一歳であった。この時、私は大泉源郎市長にお願いを申し上げたことがあった。それは若輩者ゆえに、また経験不足ゆえに、満足のいく市史が出来なかつたので、力を貯えた時にもう一度市史をやらせて欲しいと言つたのである。

その後、私は行政資料室長、図書館長となり、公的にも市史資料収集に係わる仕事をしてきたし、地方史団体にも所属し、歴史研究を続けてきた。しかし、市長は二人も交代して、私が市史を再編する話は何時しか消え去つてしまつていた。

定年を一年ほど前にしたある日のこと、対馬勝成社会教育部長（現助役）から苦小牧市史の編集をして欲しいとの話があつた。私はもう一度『苦小牧市史』を編集したいという気持は変わつていなかったで、何の躊躇いもなくこれを引き受けることにした。

一カ月後、私は鳥越忠行市長に会つて、編集方針と内容を説明した。私は、以前の市史は若き日に編集したので、研究不足による誤りや考え違いもあり、その後の研究成果により歴史観が変わつたものもあり、全編の書き直しをしないと申し出た。しかし、市長は「前の市史の続きだけでよい」といつて、書き直しは認めてくれなかつた。

私としては、どうしても直しておくべき箇所があり、市制施行五〇周年記念誌として、中学生向きの四〇〇ページほどの小史である『苦小牧のあゆみ』の発刊を提案し、市長の了承を得ることが出来た。ただ、この小史編集はあくまでも略史であつたから、私の歴史観を埋めることは出来なかつた。そのうえ、かなりの手間がかかり、本史編集への時間的な影響を与えたことを少なからず後悔することになった。

平成八年（九六）五月一日に総務部市史編集事務局が設置され、「苦小牧市史編集事務局設置規則」が公布された。

苦小牧市規則第一六号

苦小牧市史編集事務局設置規則

（設置） 第一条 市制施行五〇周年記念誌の編集及び「苦小牧市史」の追補編に関する事務を行なうため、苦小牧市史編集事務局（以下「事務局」という。）を置く。

（職員） 第二条 事務局に事務局長その他必要な職員を置く。

（職務） 第三条 事務局長は、上司の命を受け、事務局の事務を掌理し、所属の職員を指揮監督する。

2 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

（雑則） 第四条 この規則に定めるもののほか、事務局における事務の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。
付 則 この規則は平成八年五月一日から施行する。（以下略）

これにより市立中央図書館内に苦小牧市史編集事務局が開設され、事務局長に堀江敏夫（市立中央図書館長兼務）、編集員に三上豊（元苦小牧西小学校長）、高橋稔（元苦小牧東小学校教諭）が発令された。

一年目は事務局長の指揮により、資料収集に当たり、『続苦小牧市史年表』を発刊し、『新聞切抜綴二三〇冊』を作成した。

平成九年（九七）四月一日に定年退職となって私は、嘱託職員として引き続き事務局長として発令され、市史編集に専念することになった。

しかし、苦小牧市史追補編は僅か二十五年という短い期間の歴史ではあったが、工業開発、自然保護が多くの事項に絡み合っており、難しく多彩な歴史事項を引きずっている事実を知った。私は現体制での編集作業は無理があると悟り、

直接市長に会って編集員の一名増員をお願いし了承を得たのである。

これにより、平成十年（九八）四月一日付けで貝出邦彦編集員（前明野小学校教諭）が発令され、新しい編集体制を組み、本格的に編集作業に入った。同年九月に市制施行五〇周年記念誌『苦小牧のあゆみ』を発刊した。

しかし、編集責任者である私は、平成十年十二月に大腸ガンで倒れ、手術を含み四十日間入院してしまった。このため、約半年間は体調が回復せず、編集作業が大幅に遅れを生じ、発刊も一年遅らせざるを得ない状態に陥ってしまった。私は助役、市長にお願いして、一年延長を認めてもらった。ただ、事務担当者から人員削減してやって欲しいと言われ二人体制となり、私と貝出編集員が残ることになった。

総ての原稿が出来上がったのは、平成十二年（二〇〇〇）九月で、ページ数にして二、三〇〇ページにおよぶものであった。さあ、大変だ、この原稿を規定の一、七〇〇ページに絞らなければならない、それは総括責任者である私の仕事なのである。

この編集の仕事は毎日、毎晩、原稿とフロッピ―を自宅にまで持ち帰り、二カ月間の作業が続いたのである。私自身のものを含めて、不要なものは節ごと削除し、他編との重複箇所はどちらかを削り、短く書き替えたもの、表や図に置き換えたもの、逆に書き加えたものもあった。総て私の歴史観による判断であったが、こうしなければ規定のページ数にはならなかったのである。

各編集員には深くお詫びし、ご理解を頂きたいと思う。その結果、最終執筆者は次のようになった。

第一編	政治・行政	事務局長	堀江	敏夫
第二編	産業・経済	編集員	三上	豊
第三編	教育・文化	編集員	高橋	稔

あとがき

苦小牧市史（追補編）

第四編	社会・衛生	編集員	高橋 稔
第五編	交通・通信	編集員	貝出 邦彦
第六編	公安・災害・環境	編集員	高橋 稔
第七編	建設・公共事業	事務局長	堀江 敏夫
第八編	年表	事務局長	堀江 敏夫
総括		事務局長	堀江 敏夫

二度目の市史編集で、ある程度の自信と余裕を持っていた私ではあったが、途中で病に倒れ体調を崩してしまい、思うように捗らず、後半は焦りの毎日であった。その理由の一つに昭和五十年以降の苦小牧の歴史は、その数（歴史事項）において驚くほど多いことであった。しかも、工業開発と自然保護という相対する問題が絡み合い、人間性を浮き彫りにした生活史を含む事項が多い特徴を持っていた。そのため、総ての編集員がページ数をオーバーしていたので、止むを得ず圧縮、削除しなければならず、欠けてしまった項目もある。ただ、この部分については、それぞれの担当部課や施設、官公庁、企業、団体等において、冊子や出版物を出しているのので、詳しくは図書館等において参照されたい。計画時の目次をみると、約一ページの項目が落とされたこととなった。特に、公共事業は後がないこともあって、苦小牧港と苦東開発に絞って終わりとした。編集の不備も重ねてお詫びしたい。

ともあれ、苦小牧市史追補編の編集を無事終わらせることが出来た。この編集に当たり多くの人びとのご声援、ご協力、ご指導を賜りましたことを心から感謝を申し上げる次第であります。

苦小牧市史編集事務局長 堀江 敏夫

苫小牧市史

追補編

平成十三年三月二十五日発行

編集
発行

苫小牧市

印刷

株式会社
須田製版

